



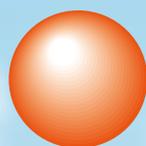
優しい風の吹く街



4月7日に兵庫県を含む7都府県に緊急事態宣言が発表され、16日には全国に拡大されました。

宝塚市議会は、市民とともにこの難局を乗り越えるため「宝塚市新型コロナウイルス対策思いやり応援基金」を創設しました。これは、市議会議員26人の6月分報酬全額と政務活動費の半年分、そして委員会視察費用全額を削減し約3340万円を積み立て、医療体制の整備や住民生活の支援等に充てるものです。また、ふるさと納税を通して集まったコロナ対策への寄付金も基金に積み立てる予定です。

この期間の党の会議や研修は全てオンライン会議システムを活用して行いました。第2波、第3波に備えて宝塚市議会の新たな会議システムの構築も必要不可欠となっています。



**これからも感染拡大を
予防するライフスタイルを！**

(参考) 厚生労働省「新しい生活様式」の実践例



2020年6月議会 北野さと子一般質問 ～抜粋～

■詰め込み学習にならないように

<質問>

学校再開にあたっての感染予防対策と授業の進め方について。

<教育長 答弁>

3ヶ月間の休校期間があったので、まずは児童・生徒が学校生活に慣れていくことが必要であると考えており、授業が過度の負担とならないように段階的に進めるようにしている。本年度の学習範囲は本年度中に終わることを基本方針としているが、単に詰め込み学習にならないように、主体的な学びを意識した授業展開を心がけている。学校再開時には、はじめに新型コロナウイルス感染症防止の方法、感染症に対する偏見や差別をしないといった人権尊重について指導を行い、学校での新しい生活様式に早く慣れる

ように対応していく。熱中症対策についても、各校の実情に合わせたとりくみを行い、児童・生徒の安全を踏まえた教育活動を進めていく。

■学校の人材確保

<質問>

保健室の養護教諭サポート要員や、少人数授業のための教職員確保など、様々な場面での人材確保が早急に必要ではないか。

<教育長 答弁>

感染症対策を講じながら、子どもたちの学びを保障することが重要で、学校教育ならではの学びを最大限進めるため、人的体制の整備が必要。文部科学省が教育体制の緊急配備に関する支援策として「教員加配」や「学習指導員」と「スクールサポートスタッフ」の追加配置を打ち出している。

■心のケア

<質問>

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大人も子どもも、慣れない自粛生活を送ってきた。自粛生活が長期化する中で、経済困窮に陥る家庭もあり、憂鬱な気持ちや焦りなどが継続し、心の健康が維持できなくなっているという報告もある。特に子どもに対して、学習サポートや食事の提供が不十分であるなどのネグレクトや、性被害やDVなどの事例もあるようだ。学校再開にあたっては、子どもの心のケアや、虐待防止対策等を十分にを行い、楽しく安心できる居場所としての学校づくりを進めるべきであると考えている。対応策は。

<教育長 答弁>

スクールカウンセラー（以下SC）は、臨時休校期間中も状況に応じた対面相談の継続とともに、児童・生徒、保護者に寄りそうメッセージの配布により、心のケアに努めてきた。今後、一層の支援が必要であると考えており、国の補助金などを活用しながら、配置時間のさらなる充実を図っていく。

スクールソーシャルワーカー（以下SSW）については、本年度1人増員し、8人の配置になった。この増員により、配置校や派遣校では、児童・生徒の様子についてのより詳細な把握や、関係機関との迅速な連携が可能となっている。各校では臨時休業期間中、SSWを含めた校内支援体制づくりにとりくんできており、今後も福祉など関係機関との連携を図りながら、児童虐待事案にも対応していく。

一方、教育委員会でも学校再開に向けて非常事態に対する不安を取り除くため、教育委員会所属の臨床心理士による、子ども、保護者、教職員に向けたメッセージの作成・配布を行った。加えて、「こころとからだのアンケート」や「登校状況調査」を行い、児童・生徒の心身の状況を把握するとともに、教員による児童・生徒全員への面談を含めた丁寧な対応を進めている。

■教育予算の確保

<質問>

SSWやSC、子ども支援サポーター、心理相談員などの専門職の安定した働き方を保証できるように待遇改善を図るべきだが、そのためには教育予算の確保が必要不可欠。市長部局の見解は。

<行財政改革担当部長 答弁>

「子どもたちの学びの保障」とする教育に関するとりくみについては、事業効果をしっかり見極めるとともに、補助金や交付金なども積極的に活用し、予算に反映していきたいと考えている。

■友だちと心が繋がる活動

<質問>

休校後の教育活動について、文部科学省は「無理に指導内容を詰め込んで授業を行わない。学校行事等も含め『学校教育ならではの学び』を進めることが大切だ。」としている。

水泳や運動会や音楽会などの行事はすでに中止となったが、子どもの成長にとって「友だちと心が繋がる活動」はとても重要である。制限された中でも、なんらかの「体験学習」を実施できないか。学校現場がどういう活動をしたいのか調査しては。

<学校教育部長 答弁>

現在学校が行事等について検討しているところであり、必要な助言をしている。

風のココロ

関西TVドキュメンタリー「宝塚市立病院のコロナウイルス感染症とのたたかい」を見た。感染対策チームの医師・看護師・薬剤師等の日夜の奮闘と、病院長の「公立病院として宝塚市民の命を守る使命がある。逃げるわけにはいかない。」との言葉に胸打たれた。医療崩壊の危機感を共有し、宝塚市医師会の協力も得て発熱外来の整備等新たな医療体制ができたことは心強い限りである。